

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	環境活動支援事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
予算科目	01-040104-020000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	環境分野の市民活動団体、市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 環境ファンクラブ <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
環境の保全や創造の重要性に気付き、考え、それぞれの立場に応じて自発的、積極的に行動する市民、市民団体、事業者が、活発な環境保全活動を行うとともに、先導的な取組を広域的に発信しています。		環境ファンクラブ登録会員のネットワーク化を図るため、活動発表会などを開催するとともに、環境団体などの活動の活性化を図るため、団体活動などを支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	活動発表会等開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		2	2	4	4	4	4	
	実績		2	3					
活動指標②	指標名	-						単位	-
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標			-	-	-	-		
	実績								
成果指標①	指標名	環境ファンクラブ登録会員数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		65	70	80	90	100	120	
	実績		62	77					
成果指標②	指標名	-						単位	-
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標			-	-	-	-		
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
環境フェアなどの機会に、環境ファンクラブ会員によるパネル展示会や環境教室等を開催するとともに、会員向けの環境学習講座を開催し、環境活動実践者の支援・拡大や会員相互の交流を図りました。また、環境保全活動に取り組む団体を主に資金面で支援する環境活動支援事業を始めました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民が主体となって環境活動に取り組んでいくことを促進していくため、環境ファンクラブ等との協働により推進していく本事業には、市が関与する高い必要性があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	環境ファンクラブ会員相互の交流やパネル展示会、環境教室等により、活動の輪が広がり、レベルアップも図られています。市民活動団体と市との協働も実践できています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	活動の発展・拡大に伴い、事務局機能や専門機関とのコーディネートなどを担う職員の業務が増えています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事務局機能を含め、市民活動団体と市との協働の役割分担について、更に検討していく余地があります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策と調整していく必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 必要性、有効性の総合評価は高いが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要があります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策と調整していく必要があります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			活動発表会、研修会の開催など	活動発表会、研修会開催など及び団体等支援	活動発表会、研修会開催など及び団体等支援	活動発表会、研修会開催等及び団体等支援	活動発表会、研修会開催等及び団体等支援	活動発表会、研修会開催等及び団体等支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	74	327	318	318	318	318
事業費 (A)		0	74	327	318	318	318	318
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,364	4,364	4,346	4,346	4,346	4,346
フルコスト (A+B)		0	4,438	4,691	4,664	4,664	4,664	4,664

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 地球温暖化など、深刻さを増す環境問題に対応していくため、市民活動団体との協働により実施する本事業は、さらに充実させていきます。	
平成22年度の実行方針	
委託の拡大を含め、協働による役割分担や事業の推進方法等を見直し、事業の拡大・発展を図ります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策との調整を進めます。	
課長コメント	地球温暖化をはじめとする環境問題については、市民・事業者が自ら取り組むべき課題として認識し、自主的・自律的な保全活動を実践する必要があります。協働による役割分担や委託の拡大など事業の推進方法等の見直しや他の支援策との調整などの課題を検討し、事業の充実を図りたいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		環境学習講座を開催し、環境情報の提供による環境活動実践者の支援・拡大を図った。また、環境ファンクラブ会員各々の環境活動を紹介したパネル展示会や環境ファンクラブによる環境教室等を開催し、環境ファンクラブ会員相互の交流を深めるとともにその活動を広域的に発信することができた。	環境フェアなどの機会に、環境ファンクラブ会員によるパネル展示会や環境教室等を開催するとともに、会員向けの環境学習講座を開催し、環境活動実践者の支援・拡大や会員相互の交流を図りました。また、環境保全活動に取り組む団体を主に資金面で支援する環境活動支援事業を始めました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性の総合評価は高いが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要がある。	必要性、有効性の総合評価は高いが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要があります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策と調整していく必要があります。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		委託の拡大を含め、協働による役割分担や事業の推進方法等を見直し、事業の拡大・発展を図る。	委託の拡大を含め、協働による役割分担や事業の推進方法等を見直し、事業の拡大・発展を図ります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策との調整を進めます。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	環境教育推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
予算科目	01-040104-030000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
学校版わかば環境ISOの運用、環境教室の開催、ホームページによる環境情報の発信などを通じて、子どもから大人まで幅広い層の人が環境についての理解を深めています。		環境の保全や創造に向けて、環境に対する市民意識の向上を図るため、環境学習情報を発信するとともに、学校版わかば環境ISOや環境教室などの事業を展開します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	環境教室等開催回数						単位	回
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		12	13	15	15	15	15	
	実績		12	15					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	わかば環境ISOで独自分野に取り組んでる件数						単位	件
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		43	45	49	50	51	52	
	実績		44	48					
成果指標②	指標名	環境教室等参加者数						単位	人
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		700	750	800	800	800	800	
	実績		586	1,292					
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
環境教室については、子ども環境教室（川編、海編、里山編）などを開催しました。また、学校版わかば環境ISOについては、ホームページへの取組内容の掲載や研修会の実施により活動を促進するとともに、3年に1度の認定証交付式を開催し、報告冊子の作成や展示等と合わせて、情報交換を行いました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	幼稚園・保育園から小中学校まで一貫した環境教育、地域における環境教育の必要性は一層高まっています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	環境配慮行動について一定の枠組みを提示できる学校版わかば環境ISOの取組の有効性は高く、外部からも評価されています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	学校版わかば環境ISOについては、事業の拡大とともに、各校の担当教職員や事務局職員の業務量が増えています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	環境教室の実施方法や、学校版わかば環境ISOの役割分担等について、検討課題が残されています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		必要性、有効性の総合評価は高いが、実施方法や役割分担の見直し等により、効率性を向上させていく必要があります。		

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			環境教室開催等	環境教室、わかば環境ISO認証事業開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室、わかば環境ISO認証事業開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室開催等
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	565	961	368	368	961	368
事業費 (A)		0	565	961	368	368	961	368
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	5,455	5,455	5,432	5,432	5,432	5,432
フルコスト (A+B)		0	6,020	6,416	5,800	5,800	6,393	5,800

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 必要性、有効性の評価は高く、現状の規模で事業の充実を図っていきます。	
平成22年度の取組方針	
実施方法や役割分担の見直し等により、効率性を向上させて、事業の充実を図っていきます。	
課長コメント	環境教育の必要性、有効性に照らして、実施方法や職員の役割分担の見直しにより効率性の向上に努め、事業の充実を図りたいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		「緑化まつり」や「ひらつか環境展」等の場で、幅広い年齢層を対象とした環境教室を開催した。平成19年度は、新たな内容の環境教室を開催し、環境について学ぶ機会を提供した。学校版わかば環境ISOについては、ホームページへの取組内容の掲載や研修会の実施により、活動を促進するとともに、3年に1度の認定証交付式を開催し、報告冊子の作成や展示等と合わせて、情報交換を行いました。	環境教室については、子ども環境教室（川編、海編、里山編）などを開催しました。また、学校版わかば環境ISOについては、ホームページへの取組内容の掲載や研修会の実施により活動を促進するとともに、3年に1度の認定証交付式を開催し、報告冊子の作成や展示等と合わせて、情報交換を行いました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性の総合評価は高いが、実施部署や事務局となる環境政策課等の職員の役割分担や実施方法の見直しにより、効率性を向上させていく必要がある。	必要性、有効性の総合評価は高いが、実施方法や役割分担の見直し等により、効率性を向上させていく必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		実施部署や事務局となる環境政策課等の職員の役割分担や実施方法の見直しにより、効率性を向上させて、事業の充実を図っていく。	実施方法や役割分担の見直し等により、効率性を向上させて、事業の充実を図っていきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 公園清掃等を行うことにより、環境美化への意識向上、会員相互のコミュニケーションの手段、情報交換の場など、まちづくり・ひとづくりの一端を担う事業であることから、必要性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 定期的に公園清掃を行うことにより、市民が公園を快適に利用できることから、有効性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 地域の公園は地域の手で守り育てることを通じて、公園への愛着も生まれ、公園愛護精神の普及に貢献し、地域環境保全にも繋がる活動となります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 公園が増加する中、維持管理経費の財源確保が困難な現状において、全ての公園に愛護会が結成され公園清掃等を行うことにより、経費節減へとつながります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難性があるほか、活動の質の向上や、愛護会間の活動充実に関する相違などが課題です。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	30	60	0	0	0
	一般財源	0	5,353	5,587	5,854	5,964	6,014	6,064
事業費 (A)		0	5,353	5,617	5,914	5,964	6,014	6,064
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.71	0.55	0.76	0.76	0.76	0.76
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	14,349	4,616	6,351	6,351	6,351	6,351
フルコスト (A+B)		0	19,702	10,233	12,265	12,315	12,365	12,415

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 維持管理経費の削減に向け、全ての公園に愛護会が結成されるよう進めます。	
平成22年度取組方針	
公園愛護会連絡協議会と連携し、新規愛護会への勧誘と共に愛護会活動の質の向上のため交付金の運用見直しの検討、協議を行います。	
課長コメント	美化推進及び安心・安全に利用できる公園づくりを市民と協働で行うため、市内全公園の愛護会結成に向け働きかけていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		年1回の公園愛護会連絡協議会総会開催、役員会3回開催、視察研修会開催（横須賀市三笠公園、長井海の手公園）参加者124名、愛護会ニュース発行2回、前述の活動を通じ緑化モデル団体や公園愛護会が育成されるとともに、公園愛護会への新規登録が4団体あった。	年1回の公園愛護会連絡協議会総会開催、役員会3回開催、市外視察研修会開催（調布市 神代植物園、横浜市 四季の森公園）参加者115名、市内公園視察研修会開催 参加者14名、愛護会ニュース発行2回、前述の活動を通じ緑化モデル団体や公園愛護会が育成されるとともに、公園愛護会への新規登録が5団体がありました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		<ul style="list-style-type: none"> ・愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難。 ・活動の質の向上。 ・愛護会間の活動充実の相違。 	愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難性があるほか、活動の質の向上や、愛護会間の活動充実に関する相違などが課題です。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		公園愛護会連絡協議会と連携し、新規愛護会への勧誘と共に愛護会活動の質の向上のため交付金の運用見直しの検討、協議を行う。	公園愛護会連絡協議会と連携し、新規愛護会への勧誘と共に愛護会活動の質の向上のため交付金の運用見直しの検討、協議を行います。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	保全樹等指定事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
予算科目	01-080405-030000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等	緑化の推進及び緑の保全に関する条例		
対象・受益者	対象樹木管理者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
良好な樹木・樹林・生垣が保全されています。		良好な樹木・樹林・生垣を保全するため、保全樹などを指定し適正な維持管理を支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	保全樹木調査、募集回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		3	3	3	3	3	3	
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	保全樹木の本数						単位	本
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		52	53	54	55	56	57	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木（49本）・樹林（8か所）・生垣（6か所）に対して奨励金を交付しました。また、枯損及び倒木を防ぐための処置や、第三者に対して損害を与える可能性があるなどの危険性がある樹木に対して、樹木医の診断により、樹勢回復の施術や危険回避の措置を行い、良好な樹木・樹林・生垣が保存されました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	緑豊かなまちづくりの実現のためには、良好な樹木（62本）・樹林（9か所）・生垣（6か所）を保全していくことが重要なことから、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	保全樹等の多くは老木・古木であり、近年の厳しい環境変化により樹勢が衰える傾向にあるため、継続して状態を観察しながら保全していくことが必要なことから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制（人員配置、業務分担） <input type="checkbox"/> その他	樹木等を良好な状態に保つために、所有者自身の管理はもとより、行政としても樹木医等の専門的知識を活用した補助と支援が必要なことから、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） <input checked="" type="checkbox"/> その他	保全樹等の多くが老木・古木であり、年々樹勢が衰えるものもありますが、樹木医等を活用して、貴重な樹木等の保全に努める必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要があります。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入、樹木医診断等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入、樹木医による診断等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入、樹木医による診断等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入、樹木医による診断等
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	967	2,038	2,432	2,432	2,432	2,432
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	967	2,038	2,432	2,432	2,432	2,432
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,182	2,182	2,173	2,173	2,173	2,173
フルコスト (A+B)		0	3,149	4,220	4,605	4,605	4,605	4,605

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 保全樹等の状態を把握するために、平成21年度から市内を13地域に分け、1年に3～4地域のペースで4～5年かけて樹木医による診断を行い、診断の結果何らかの処置が必要なものについては、枯損、倒木による被害を避けるための支援を行っていきます。	
平成22年度取組方針	
保全樹等を指定し補助するだけでなく、長く良好な樹木として保存するために、樹木医を活用し保全を支援していきます。	
課長コメント	市内に残された貴重な樹木等を保存するために、樹木医を活用して積極的に保全を進めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木（49本）・樹林（8ヶ所）・生垣（6ヶ所）に対して奨励金を交付した。また、枯損の危険性がある樹木に対して、樹勢回復の施術を行うことにより、良好な樹木・樹林・生垣が保存された	市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木（49本）・樹林（8ヶ所）・生垣（6ヶ所）に対して奨励金を交付しました。また、枯損及び倒木を防ぐための処置や、第三者に対して損害を与える可能性があるなどの危険性がある樹木に対して、樹木医の診断により、樹勢回復の施術や危険回避の措置を行い、良好な樹木・樹林・生垣が保存されました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要がある。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要がある。	保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要があります。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		保全樹等を指定し補助するだけでなく、長く良好な樹木として保存するために、樹木医を活用し保全を支援していく。	保全樹等を指定し補助するだけでなく、長く良好な樹木として保存するために、樹木医を活用し保全を支援していきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	河川や地下水の水量確保、水質の浄化、水辺環境や生態系の保全に効果があります。	○ 高 ● 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	自然を守る仕組みに対する保全活動を推進できます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	地域、流域の個性を生かす取り組みが出来ます。	○ 高 ● 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	横浜国大大学院環境情報研究院との共同研究を進めます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

庁内関係各課との役割分担を整理決定していきます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			参加市民の募集・ 計画(案)の作成	計画書策定・参加 市民との意見交換	計画の運用			
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0	0	0	0
執行率 (%)		-	-	-				
内訳	職員 (人)	0.00	0.50	0.50	0.65	0.65	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,196	4,196	5,432	5,432	0	0
フルコスト (A+B)		0	4,196	4,196	5,432	5,432	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
○現状の規模で継続 ○拡大して継続 ●縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合	
<判断理由> 関係課との調整に時間がかかっており、事務事業として位置づけ、県事業の湘南里川づくりと連携して進めていきます。	
平成22年度 of 取組方針	
里川関連関係課との意見交換を行います。	
課長コメント	独自での推進は厳しいものがあり、今後は湘南里川づくりと連携して進めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	③：遅れている
主な取組と成果		内部検討会を開催し、計画（案）及び市民公募要領（案）を策定した。また、横浜国立大学大学院環境情報研究院と協働で調査研究を進めた。	理事者への報告及び担当課と協議を重ねた。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		庁内委員会各課の役割分担を整理していく。	庁内関係各課との役割分担を整理決定していきます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	縮小して継続
取組方針		計画推進のために、市民とのワークショップを開催する。	里川関連関係課との意見交換を行います。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	事務事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。